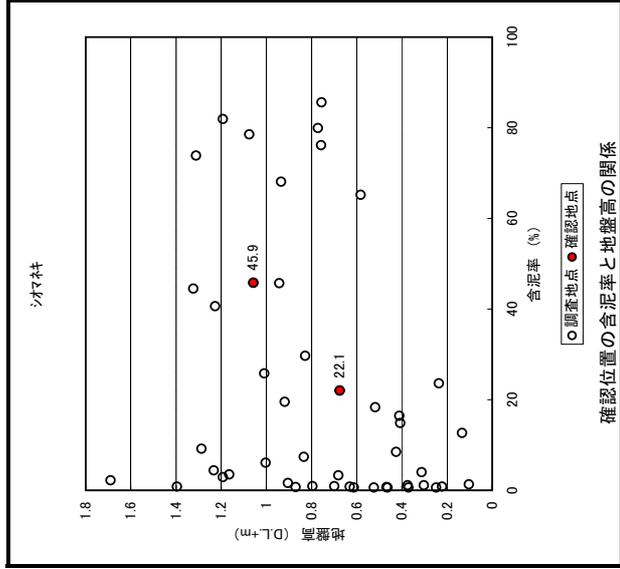
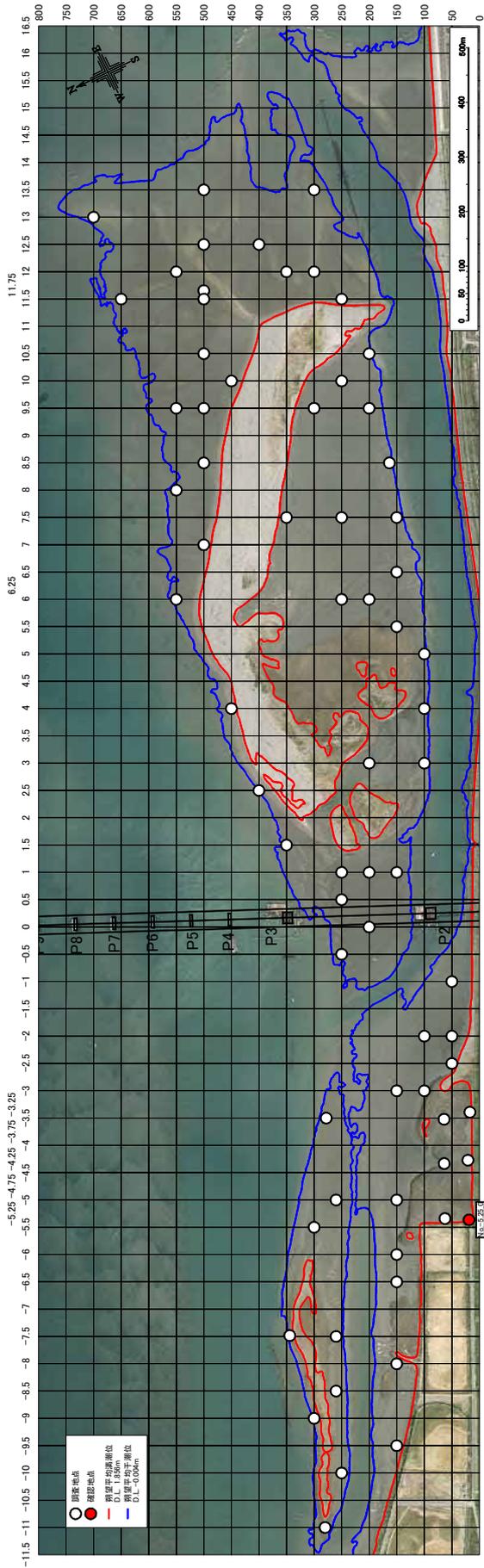


種名	シオマネキ
目科名	十脚目スナガニ科
学名	<i>Uca arcuata</i>
確認状況	確認地点数：2地点 確認個体数：2個体
地盤高(D.L.m)	0.674 ~ 1.057
含泥率(%)	22.1 ~ 45.9
表層微細粒度(μm)	D50：188.0 ~ 344.9
確認状況及び確認位置の底質等	分布概要 和歌の浦、多々良川(福岡市)、長崎、有明湾、島原半島、韓国、黄海；台湾(タイペイ)；中国(シヤントン半島、フーチョウ、香港)
希少性	環境省RDB 準絶滅危惧 徳島RDB 絶滅危惧I類 WWF Japan 危険

No.	地点名	個体数	No.	地点名	個体数
1	No.-4.25_75	1			
2	No.-5.0_150	1			

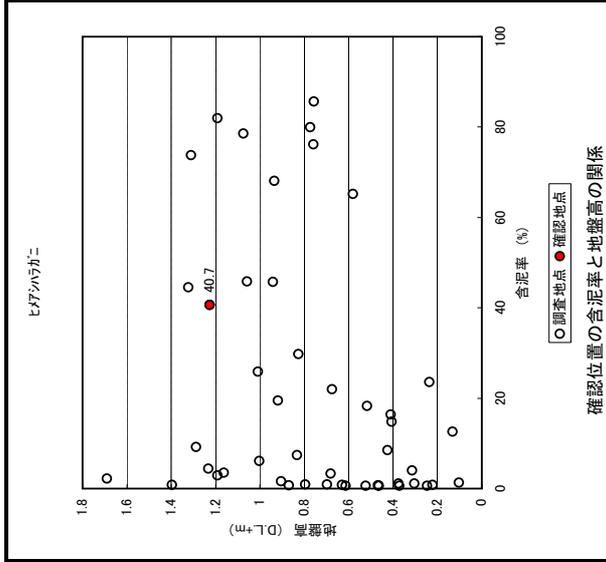


シオマネキの確認状況(7月)
 <航空写真 撮影日：平成18年4月1日>



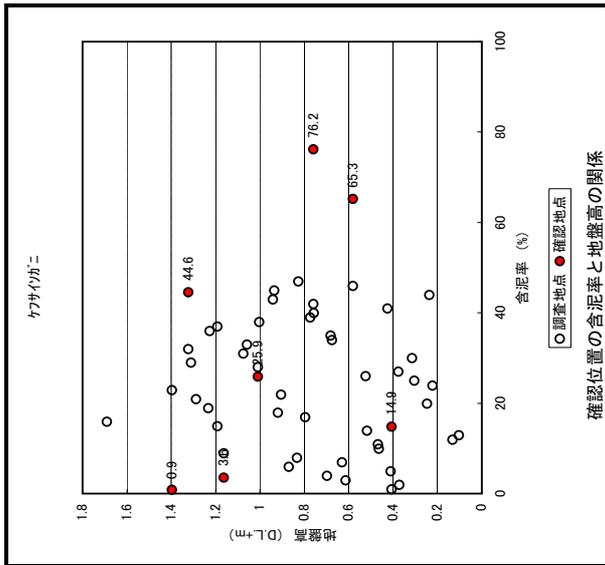
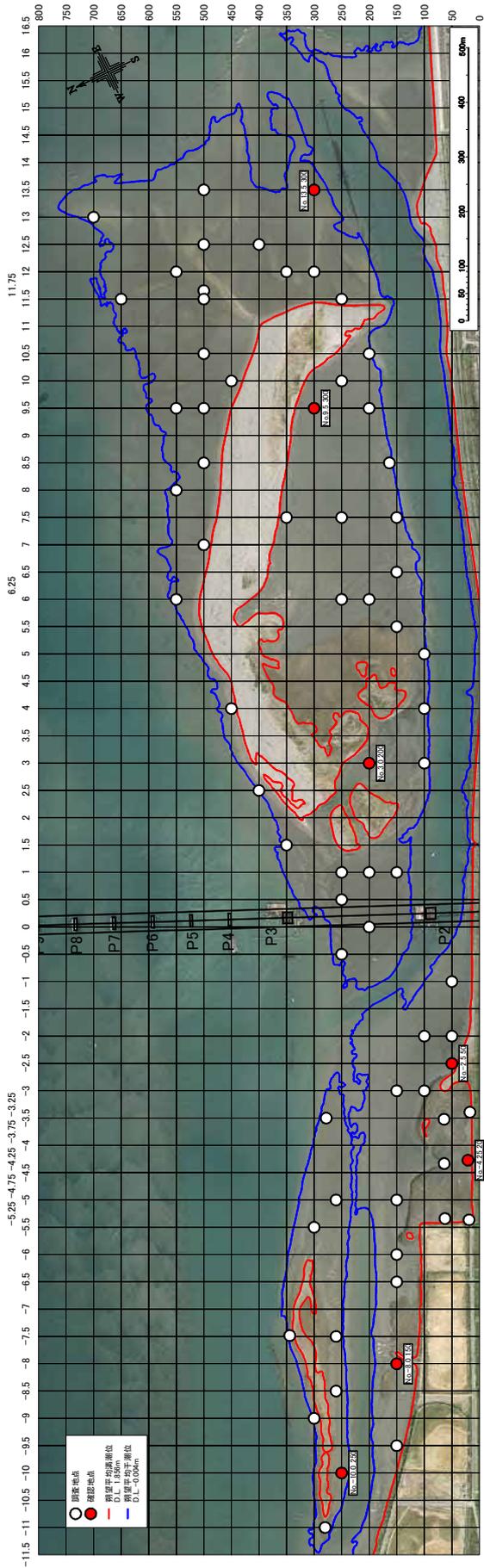
確認状況及び確認位置の底質等	
種名	ヒメアシハラガニ
目科名	十脚目モクズガニ科
学名	<i>Helice japonica</i>
確認状況	確認地点数：1地点 確認個体数：1個体
地盤高(D.L.m)	1.226
含泥率(%)	40.7
表層微細粒度(μm)	D50：481.5
	分布概要
三浦半島、島原、天草、長崎、熊本、福岡；韓国；中国（シャントン半島）	
徳島県（吉野川河口汽水域、徳島市応神町古川）	
環境省RDB	—
徳島RDB	絶滅危惧Ⅰ類
WWF Japan	—
希少性	—

No.	地点名	個体数	No.	地点名	個体数
1	No.-5.25.0	1			
確認個体数（上位20地点）					



確認位置の含泥率と地盤高の関係

ヒメアシハラガニの確認状況（7月）
 <航空写真 撮影日：平成18年4月1日>

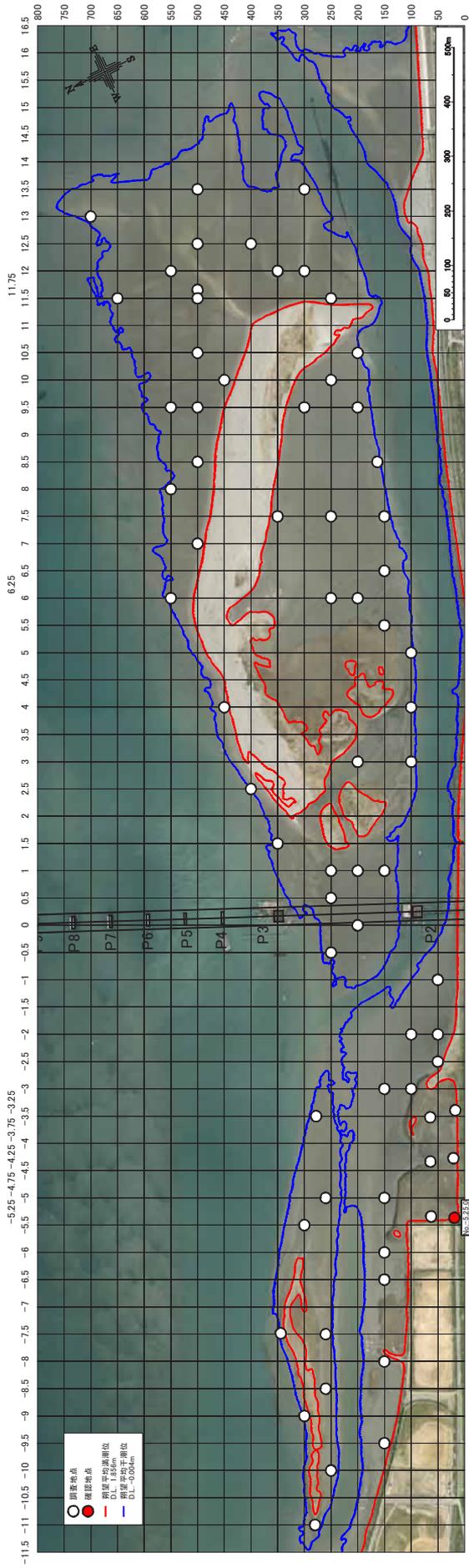


No.	地点名	個体数	No.	地点名	個体数
1	No. 3. 0. 200	3			
2	No. -4. 25. 20	3			
3	No. 13. 5. 300	1			
4	No. 9. 5. 300	1			
5	No. -2. 5. 50	1			
6	No. -8. 0. 150	1			
7	No. -10. 0. 250	1			



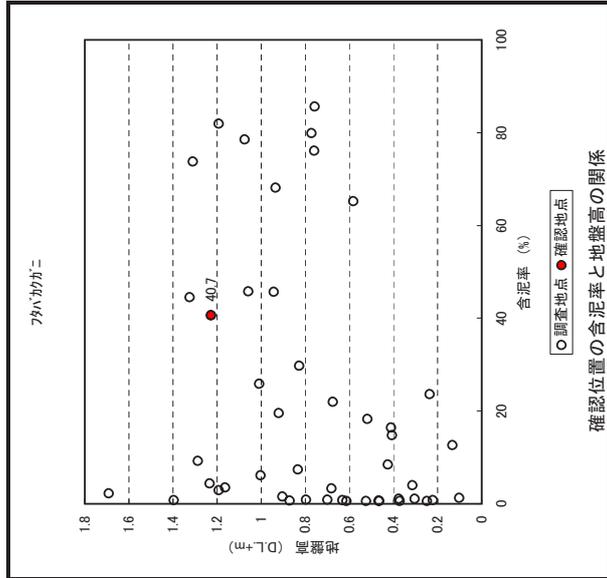
確認状況及び確認位置の底質等	ケブサイゴンガニ 十脚目モクズガニ科 <i>Hemigrapsus</i> 確認地点数：7地点 確認個体数：11個体 地盤高(D.L.m) 0.406 ~ 含泥率(%) 0.9 ~ 表層微細粒度(μm) D50：29.3 ~ 分布概要 北海道、厚岸、空朗、函館湾、陸奥湾、岩手県、鏡山湾、東京湾、相模湾、三崎、伊豆下田、伊勢湾、紀伊半島、南紀白浜、土佐湾、宮崎県、奄美大島、沖縄、天草、長崎；東シナ海；韓国(チェジュ島)；黄海；台湾；中国(シャントン半島)；ハワイ諸島；高潮線-低潮線 徳島県：吉野川河口汽水域(徳島市志神町古川、城東町、川内町鶴島)；鳴門市鳴門町横山；海部郡海南田浅川浦上川、河口 県内の生息状況
希少性	環境省RDB 徳島RDB WWF Japan 絶滅危惧Ⅱ類

ケブサイゴンガニの確認状況(7月)
 <航空写真 撮影日：平成18年4月1日>

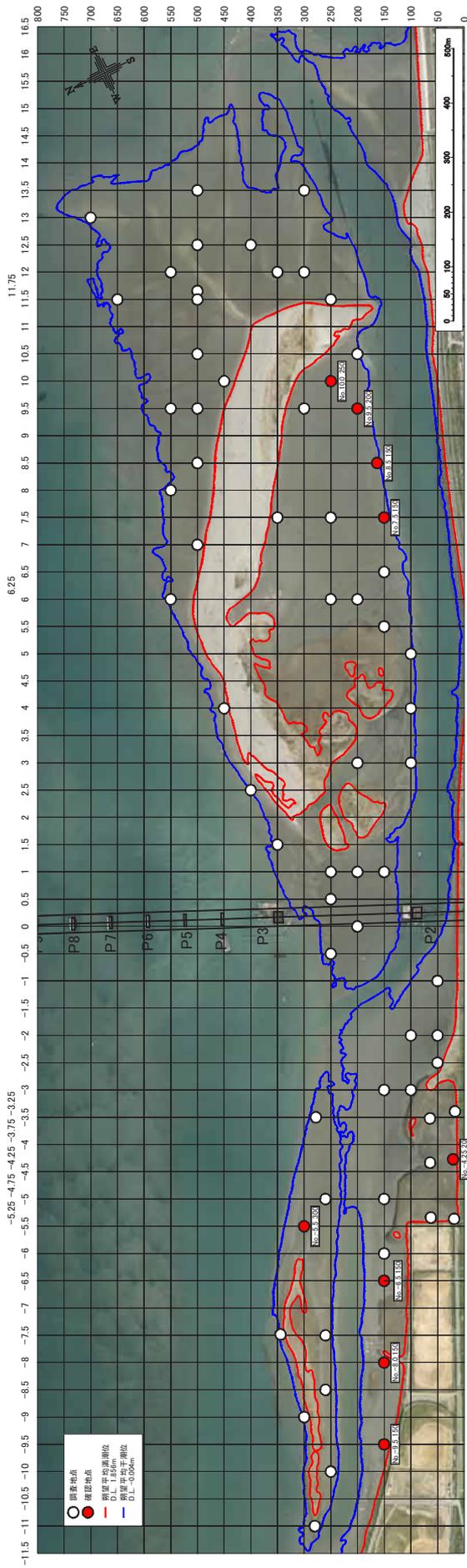


確認状況及び確認位置の感質等	種名 フタバカクガニ
	目科名 十脚目モクズガニ科
	学名 <i>Sesarma sp.</i>
	確認地点数：1地点 確認個体数：1個体
	地盤高(D.L.m) 1.226
	含泥率(%) 40.7
	表層微細粒度(μ m) D50：481.5
	分布概要
	横浜、相模湾、伊豆下田、紀伊南部、南紀白浜、高知、長崎、天草、韓国(チエジュ島)；台湾；中国；香港；インドネシア；フィジー；ベンガル湾；アングラム諸島；ニコバル諸島；メルギー諸島；スリランカ；サンジバル
	県内の生息状況
	徳島県(古野川河口汽水域、徳島市志神町古川)
希少性	環境省RDB 徳島RDB WWF Japan
	絶滅危惧II類

確認個体数(上位20地点)	No.	地点名	No.	地点名	個体数	個体数
	1	No.-5.25_0	1			

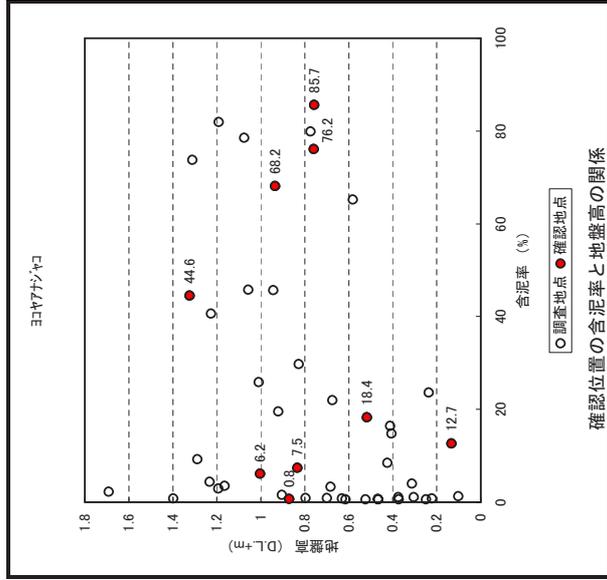


フタバカクガニの確認状況(7月)
 <航空写真 撮影日：平成18年4月1日>

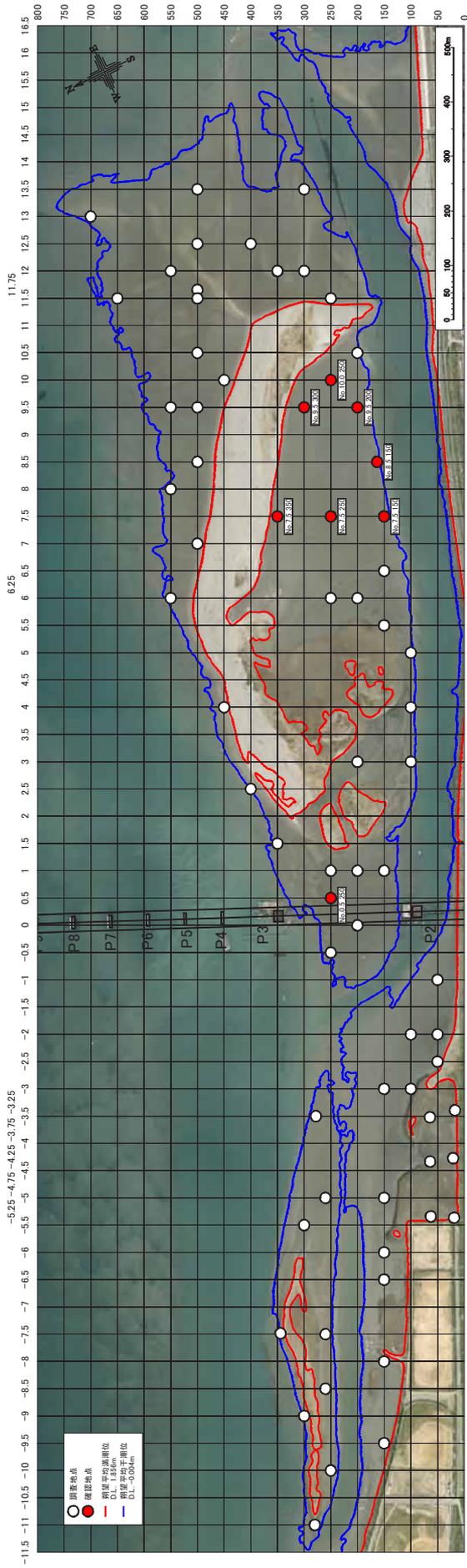


確認状況及び確認位置の底質等	種名	ヨコヤアナジャコ
	目科名	十脚目アナジャコ科
	学名	<i>Urogebia yokoyai</i>
	確認状況	確認地点数：9地点 確認個体数：24個体
	地盤高(D.L.m)	0.132
	含泥率(%)	0.8
	表層微細粒度(μm)	D50：23.6
		分布概要
		県内の生息状況
		徳島県：吉野川河口水域（徳島市城東町；応神町古川）、勝浦川
希少性	環境省RDB	—
	徳島RDB	絶滅危惧
	WWF Japan	—

No.	地点名	個体数	地点名	個体数
1	No. 9_5_200	7		
2	No. 7_5_150	6		
3	No. 9_5_150	4		
4	No. 8_0_150	3		
5	No. 8_5_150	2		
6	No. 4_25_20	2		
7	No. 6_5_150	2		
8	No. 10_0_250	1		
9	No. 5_5_300	1		

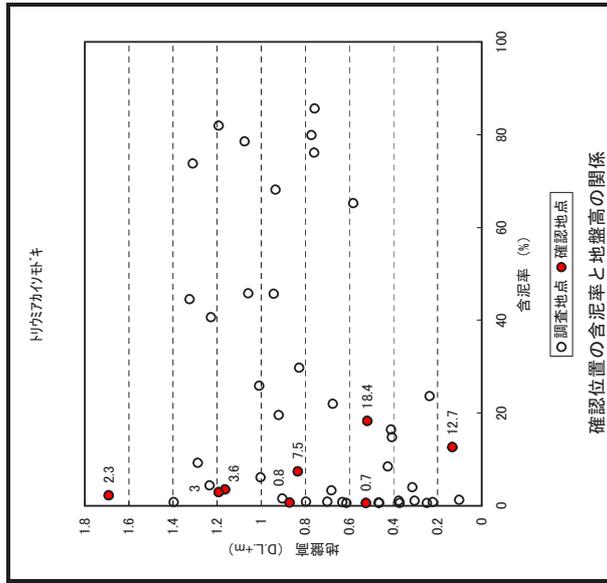


ヨコヤアナジャコの確認状況 (7月)
 <航空写真 撮影日：平成18年4月1日>

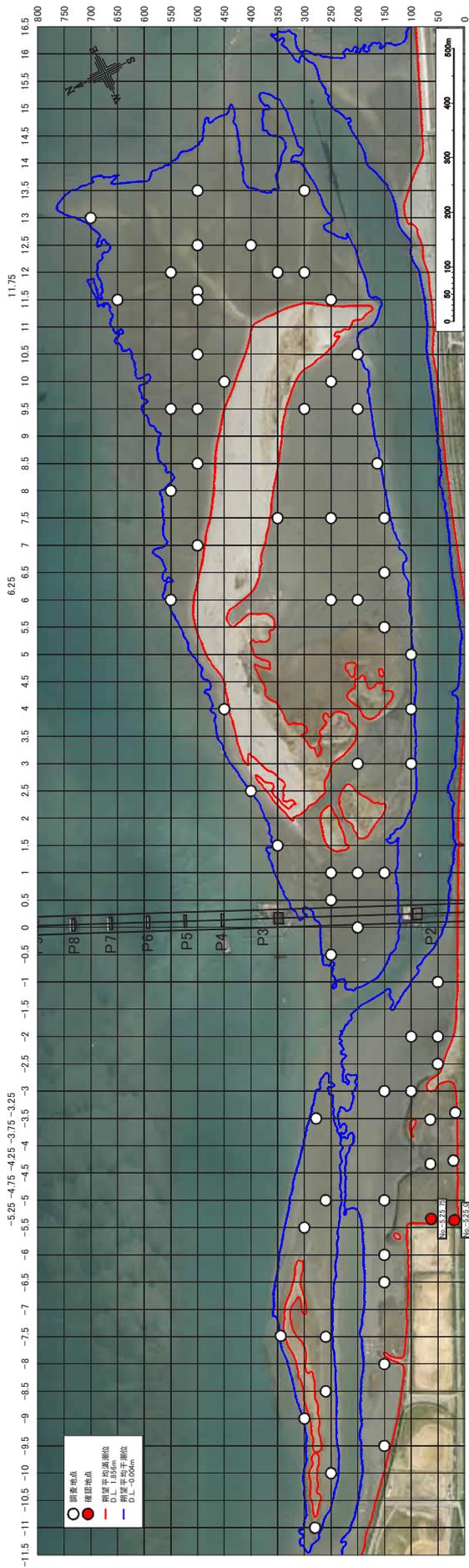


種名	トリウミアカイソモドキ
目科名	十脚目モクズガニ科
学名	<i>Aommaopileura toriumii</i>
確認状況	確認地点数：8地点 確認個体数：10個体
地盤高(D.L.m)	~ 1.690
含泥率(%)	~ 18.4
表層微細粒度(μm)	D50：189.4 ~ 442.5
確認状況及び確認位置の底質等	分布概要 函館湾、兵庫千種川河口、和歌山県沿岸、山口湾、諫早湾神代海岸、鹿児島県重富海岸。
希少性	不明。
環境省RDB	—
徳島RDB	—
WWF Japan	危険

No.	地点名	個体数	地点名	No.	個体数
1	No.10_0_250	2			
2	No.7_5_250	2			
3	No.9_5_200	1			
4	No.9_5_300	1			
5	No.8_5_150	1			
6	No.7_5_150	1			
7	No.7_5_350	1			
8	No.0_5_250	1			



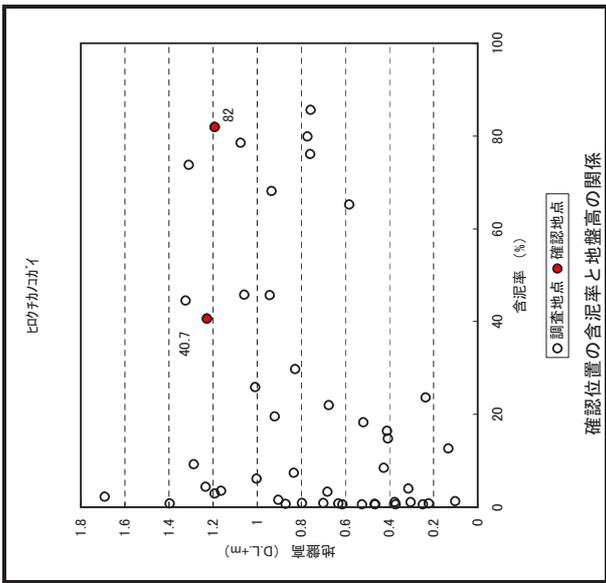
トリウミアカイソモドキの確認状況(7月)
 <航空写真 撮影日：平成18年4月1日>



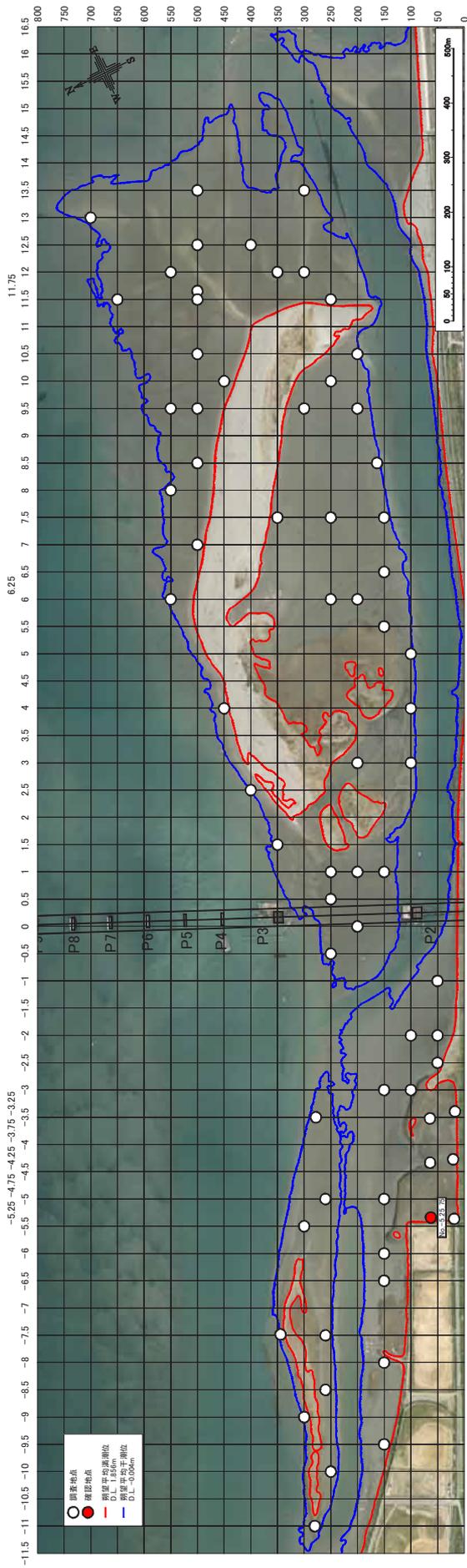
種名	ヒロクチカノコ
目科名	オキナエビスガイ目アモナガイ科
学名	<i>Meritina violacea</i>
確認状況	確認地点数：2地点 確認個体数：8個体
地盤高(D.L.m)	1.191
含泥率(%)	40.7
表層微細粒度(μm)	D50：28.2
	分布概要
<p>本種は、大陸系遺存種と考えることができ、日本列島が中国大陸と湖沼群等の形でつながっていた時代に分布し内湾環境の衰退と共に現在の分布状況にいたったと考えられる。三河湾、伊勢湾、瀬戸内海、九州北部、南西諸島の内湾流入河川群地域に生息する。</p>	
県内の生息状況	
環境省RDB	—
徳島RDB	絶滅危惧Ⅱ類
WWF Japan	絶滅寸前
希少性	

No.	地点名	No.	地点名	個体数	個体数
1	No.-5.25_0	7			
2	No.-5.25_75	1			

確認個体数(上位20地点)

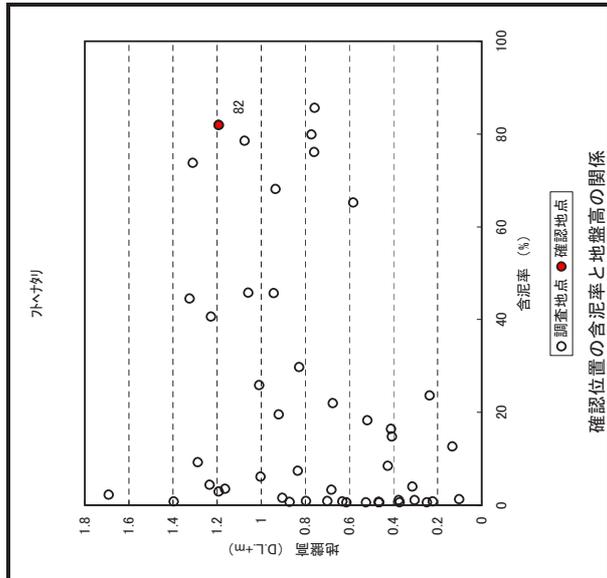


ヒロクチカノコの確認状況(7月)
 <航空写真(撮影日：平成18年4月1日)>

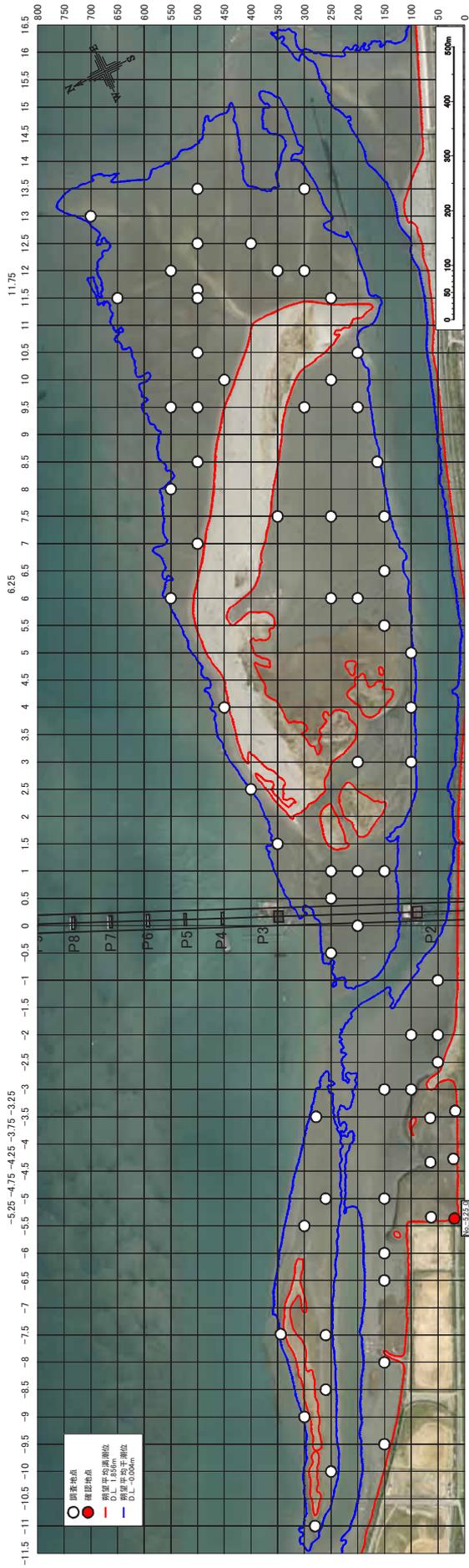


確認状況及び確認位置の底質等	種名	フトヘナタリガイ
	目科名	ニナ目ウミミナ科
	学名	<i>Cerithidea rhizophorum</i>
	確認状況	確認地点数：1地点 確認個体数：1個体
	地盤高(D.L.m)	1.919
含泥率(%)	82.0	
表層微細粒度(μm)	D50：28.2	
	分布概要	
	<p>東北地右・山口県北部以南、瀬戸内海、奄美、沖縄。台湾、西太平洋。汽水域の潮間帯、内湾の干潟に生息する。</p>	
	<p>県内の生息状況 河口や内湾の干潟の泥質でヨシ原の残っている汽水域で波静かな減打ち際が生息条件である。過去にこの種が生息したと思われる条件の場所は県南から県北まで該当の場所は既に人為的な改造が施され、1960年の調査では海部郡由岐町田井川には死骸のみで全滅であった。1958年には鴨門市の塩田や鴨門市高島の内ノ海沿岸に生息していたが護岸工事や都市計画により絶滅した。現在、勝浦川の干潟と吉野川のヨシ原に生息するのみとなっている。田畑の拡張や護岸工事、短い河川の三面張り工事、道路工事に関する生息地への拡張工事、田畑の拡張や護岸からの防止のための溢水防止ダムの設置等による種の減少の可能性がある。また、生息場所の肥質のヨシ原の環境が悪化しているで保全されることが必要である。和歌山県では漁師による釣り餌に混雑されていると聞く。</p>	
希少性	環境省RDB	準絶滅危惧
	徳島RDB	危惧
	WWF Japan	

No.	地点名	No.	地点名	個体数	個体数
1	No.-5.25_75	1			
確認個体数(上位20地点)					

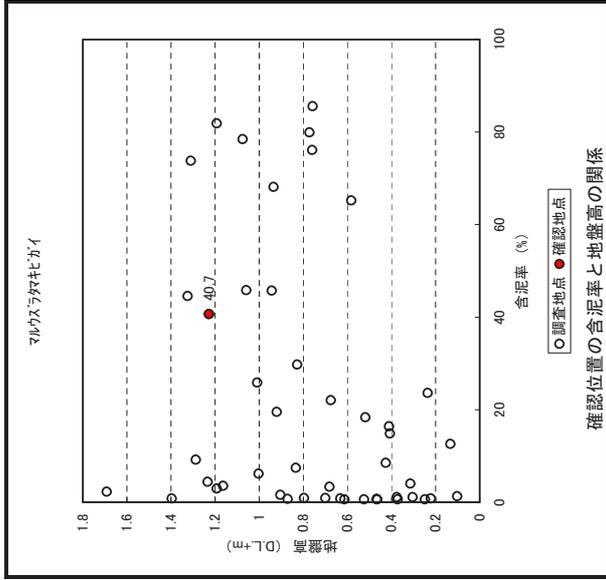


フトヘナタリの確認状況(7月)
 <航空写真 撮影日：平成18年4月1日>



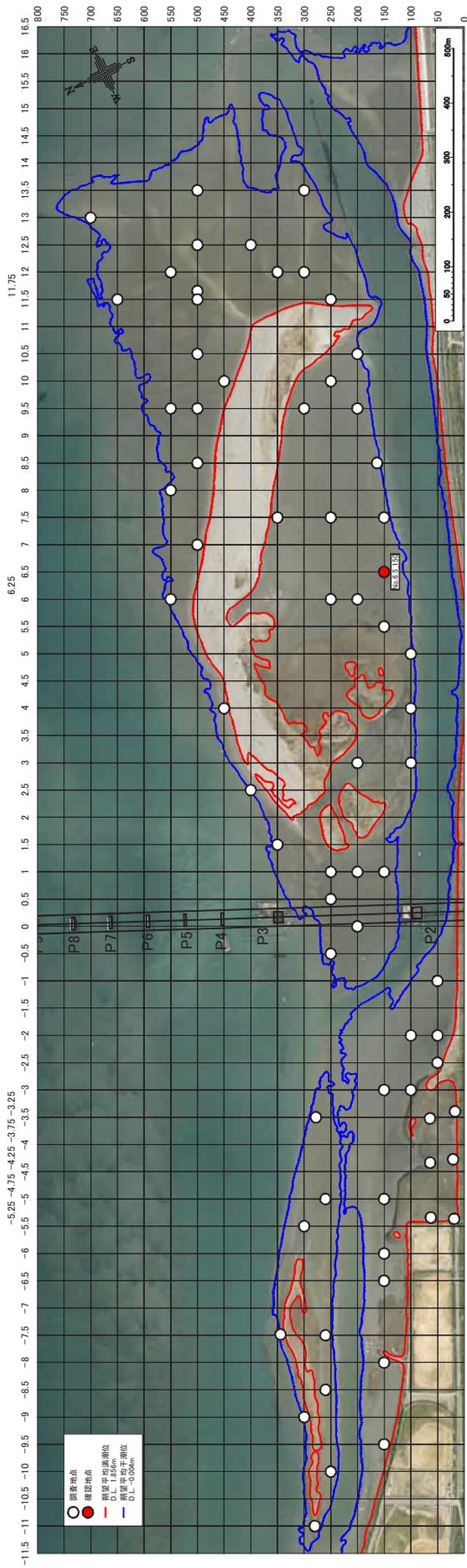
確認状況及び確認位置の底質等	種名 マルウズラタマキビ
	目科名 二ナ目タマキビ科
	学名 <i>Littoraria articulata</i>
	確認状況 確認地点数：1地点 確認個体数：1個体
	地盤高(D.L.m) 1.226
	含泥率(%) 40.7
	表層微細粒度(μm) D50：481.5
	分布概要
	瀬戸内海および有明海の飛沫帯岩礁上にタマキビ (<i>Littoraria brevicula</i>) とともに群棲する。これらの産地ではほとんど見られない。
	県内の生息状況
詳細不明	
希少性	環境省RDB 徳島RDB WWF Japan
	絶滅危惧

No.	地点名	No.	地点名	個体数	個体数
1	No.-5.25.0	1			
確認個体数(上位20地点)					



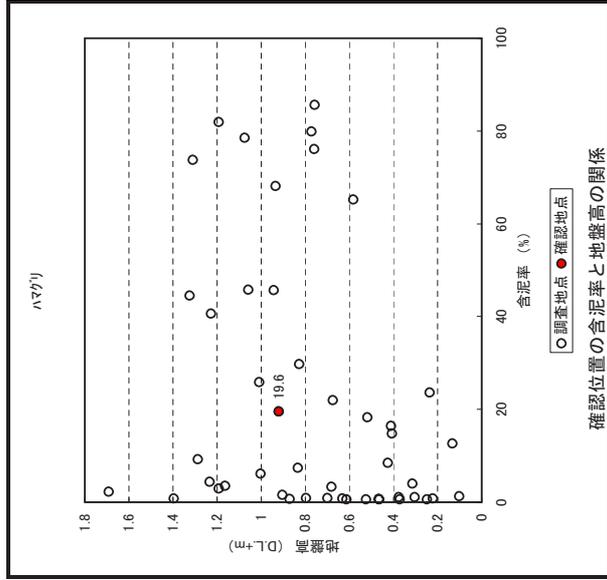
確認位置の含泥率と地盤高の関係

マルウズラタマキビの確認状況(7月)
 <航空写真(撮影日：平成18年4月1日)>

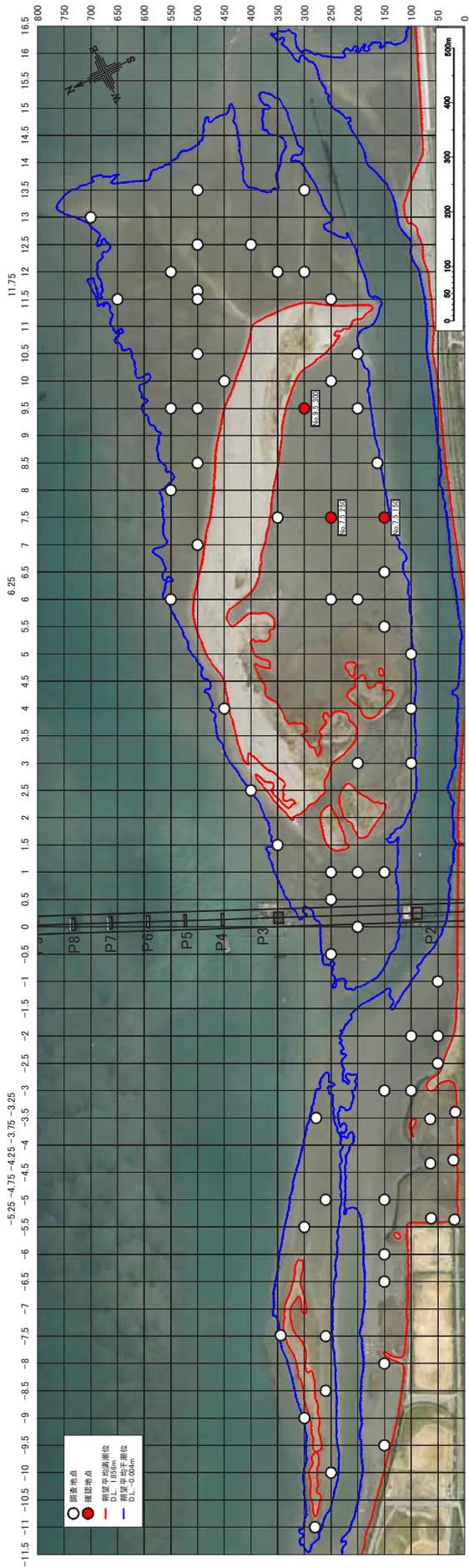


確認状況及び確認位置の底質等	種名 ハマグリ
	目科名 マルスダレガイ目マルスダレガイ科
	学名 <i>Meretrix lusoria</i>
	確認地点数：1地点 確認個体数：1個体
	地盤高(D.L.m) 0.919
	含泥率(%) 19.6
	表層微細粒度(μ m) D50：316.3
	分布概要
	現在では極めて限られた場所以外では非常に希な種になっている。
	特徴
	殻は卵三角形で比較的薄い。殻頂部はふくらみ、殻頂は多少前方に寄って傾き、前後背縁の湾曲はやや直線状。腹縁はゆるくカーブし、後端に弱い角ができる。殻表はなめらかで光沢があり、殻色は個体変異が著しい。内面は白色、蝶番部は厚く、強い3主歯と前側歯とがある。套線の湾入は浅く、腹縁は刻まれない。近い種にチウウセンハマグリやシナハマグリがある。
希少性	環境省RDB — 徳島RDB — WWF Japan — 危険

確認個体数(上位20地点)	No.	地点名	No.	地点名	個体数	個体数
	1	No. 6. 5_150	1			

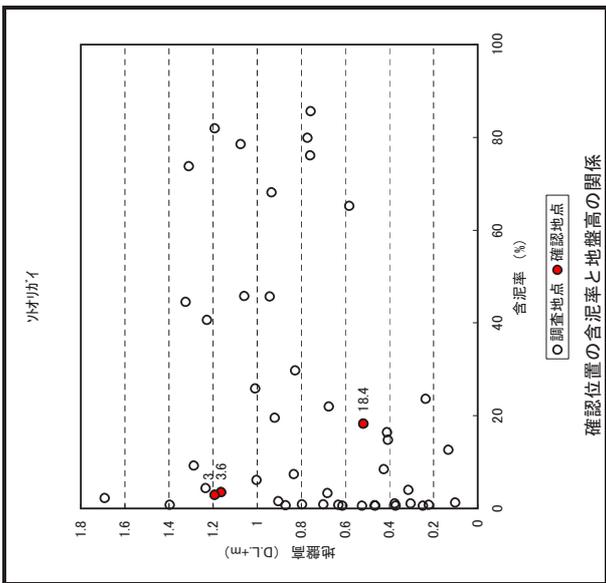


ハマグリの確認状況 (7月)
 <航空写真(撮影日：平成18年4月1日)>



確認状況及び確認位置の底質等	種名 ソトオリガイ
	目科名 ウミタケガイモドキ目オキナガイ科
	学名 <i>Laternula marilina</i>
	確認状況 確認地点数：3地点 確認個体数：3個体
	地盤高 (D.L. m) 0.517
	含泥率 (%) 3.0
	表層微細粒度 (μm) D50 : 189.4
	分布概要 ～ 1.192 ～ 18.4 ～ 380.1
	青森県、広島、島原、奄美大島、西表島、山田湾 (岩手県)、井の尻 (高知県)
	県内の生息状況 県内の生息状況
	徳島県：吉野川河口水域 (徳島市城東町；応神町古川)、勝浦川
希少性	環境省RDB 徳島RDB WWF Japan
	絶滅危惧

確認個体数 (上位20地点)	No.	地点名	個体数	地点名	個体数
	1	No. 9. 5. 300	1		
	2	No. 7. 5. 150	1		
	3	No. 7. 5. 250	1		



ソトオリガイの確認状況 (7月)
 <航空写真 (撮影日：平成18年4月1日)>

